

## ⑧ 知的障害者の生活支援

**課題：** 地域生活を支える相談支援体制において必要な社会資源(取り組み)について整理し、地域生活支援に関して入所施設が果たすべき役割について具体的に述べなさい。

地域で生活するには在宅、グループホーム・ケアホームなどがある。また、ひとりで生活したいという需要もあるかも知れない。地域生活の相談に関して重要なことは、本人のニーズに沿った生活の実現、また環境を提供することが大切である。ニーズに沿った生活とは、どのような住居に住みたいか、また障害を考慮した上で慎重に決定していかなければならない。そこで必要となってくるのが、総合的な支援方針を決める相談体制である。自立支援法にともない、3つの障害が一元化している。よって対象者は3つの障害を持つものである。その障害とは、知的障害、身体障害、精神障害である。これらの障害を持っている人々が地域で生活していく上での様々な留意点を述べていきたいと思う。

一つ目の知的障害は、地域で生活するにあたって、まわりの理解が必要である。日常生活を送る中で、買い物や外出の時など人の助けを必要とする場面は絶対的にあり、地域住民の理解があるのとないのでは大きく異なってくる。障害者が隣近所に住んでいることがわかっているならば、理解もあり、また助け合うこともできる。そのため、広報活動を行うことは大切である。具体的な取り組みとして、地域清掃を定期的に行うことや、地域の行事に参加することで広報活動の一環になると考えられる。

二つ目の身体障害者は、居住環境に留意していく必要がある。身体障害の方は車椅子を使用している場合や、目が不自由であることが挙げられ、生活する上でバリアフリーを考慮しなければならない。段差や、点字の有無、公共機関の不便さ、居住に関しては持っている障害に見合った環境設定が必要である。段差がないことや、エレベーターがついていることも考慮しなければならない。

三つ目の精神障害者は、定期的に病院に通えるような環境であることや、何かあった場合に24時間いつでもすぐに連絡が取れ、かけつけられるような体制が整ってなければならない。また、近くに信頼できる人や家族がいることが精神障害の人にとっては必要である。情緒面の安定を図るためには、常に安心していられる環境であることが一番であると考えられる。

上記に挙げたように、相談支援従事者は本人の希望と併せて障害に見合った地域での生活を慎重にプランニングしていかなければならない。そして、地域で生活する場を提供するだけでなく、その後の一般就労や地域活動支援センター等の日中活動の場の確保、その他のホームヘルプや余暇支援等の確保とともに、それらのサービス等を調整したり、様々な相談に対応する相談支援事業が必要になる。

現在、障害者支援において、脱施設化やプライバシーの確保が課題となっていることから、より普通の暮らしに近づけるような取り組みや、ユニットケアが視野に入れられている。ユニットケアの目的は、介護されるという受身な部分が減り、能動的に動けるためのストレスが軽減され、利用者のエンパワメントの上に成り立つ生活を実現することが目的である。

障害者自立支援法の下、入所施設から地域生活への移行を強く促されている。今後、入所施設は利用者の意思を尊重したうえで個別支援計画を作成し、順次地域移行のプロセスを進めていくことが重要になってくると思われる。また、触法問題を含む行動障害を軽減していく支援を提供する施設として専門性を高め、セーフティネットの要としての役割を果たしていく必要がある。

私が勤めている入所施設では、入所生活を経て地域のケアホームに移行している利用者が現在20名弱いる。しかし、その中の2名は地域で生活していたが、地域での生活が困難になり、半年程で入所施設に戻った利用者がある。

は、安心感が持てず精神面で情緒不安定となり、物や人にあたってしまう行動や、孤立感を感じてしまったのである。このことから、生活する上で基盤となる物的環境や人的環境は、とても大切なものだと感じた。また、孤立感を感じてしまわないように、地域のネットワークや利用者を取りまく関係者が一丸となって支える必要があると学んだ。

入所施設は今後、さらなる高度な支援を提供できるよう、利用者一人ひとりが将来的に地域で生活していけるように、生活基盤を整えていかなければならない。また、障害者支援に携わる我々は、利用者のニーズを確立し、地域での生活が送れるように促進していかなければならないと考える。

**講評：**

全体的に、レポートの課題に沿ってよく書けています。また、ご自身の考えも含めて展開している点もよかったです。このレポートを契機に、地域生活を支える相談支援のあり方と入所施設の果たすべき役割について考察を深めることを期待します。